

め で る

創刊号

「滋賀が好き！」な 医療人を応援します



宿泊研修 (近江今津港にて)

2011.12



- ごあいさつ **「地域医療を地域で育てよう」**
NPO法人 滋賀医療人育成協力機構 理事長 吉川 隆一 2
- 理事会報告 3
- 特集① **夏のワークショップ2011** 4~7
- 特集② **夏の宿泊研修<高島・朽木等湖西方面>** 8~13
- 今後の活動内容・入会のごあんない・入会の状況について 14・15
- 編集後記 16

「地域医療を 地域で育てよう」



特定非営利活動法人 滋賀医療人育成協力機構理事長
吉川 隆一

本年3月11日に発生した東日本大震災で被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

阪神淡路大震災を経験した我々ですが、大津波と原発事故の様子をテレビで見まして、想像を絶する大震災に愕然としました。崩壊した地域社会を再生すべく様々な努力がなされつつあるようですが、一日も早い復興を祈念致しております。

地域社会の健全な営みにとって「医療」が中核的な存在であることは被災地の様子からも窺えますが、少子高齢化が進む日本の全ての地域においても広く認識されているのが現実です。

滋賀県においても同様であり、「医療」の健全な働きを多くの県民が心から期待しているところ です。滋賀県が毎年行っている「県政世論調査」において、「県の施策で力を入れてほしい」項目として、毎年一位になっている項目は「医療・介護等提供体制の整備」です。

「医療・介護提供体制の整備」には病院等各種施設の整備は必要ですが、最も必要で、かつ大切なのはそこで働く人材の確保です。県内でも様々な団体が滋賀医科大学を始めとする医療人育成機関と連携して、地域の方々が医療人の育成プログラムに参画する活動がなされております。

特に、平成19年度から22年度に実施された文科省支援の「地域「里親」による医学生支援プログラム」は、医療人育成に地域住民の参画が重要であることを広く滋賀県民に認識して頂く上で、大きな役割を果たされたのではないかと思います。

この度、県内の医療人育成に尽力されてきた多くの団体・組織が集結し、「滋賀医療人育成協力機構」(NPO法人)を発足させることができました。地域医療に貢献する「良き医療人」を育成するための活動を結集・向上させるための試みであり、地域で医療人を育てることで地域医療の確立に貢献できればと願っております。県内の多くの方々のご支援・ご協力を頂けるようお願い申し上げます。

滋賀医療人育成協力機構 第1回理事会を開催し、 これからの活動内容等を検討しました。

- 日 時：平成23年7月15日(金) 午後2時から午後3時まで
- 会 場：滋賀医科大学 クリエイティブモチベーションセンター
- 出席者：吉川隆一理事長、小鳥輝男副理事長、服部隆則副理事長、井下照代理事、
埜田和史理事、三ツ浪健一理事、西川甫監事
- 事務局：中森愛子、呉竹仁史
- 陪席者(滋賀医科大学関係職員)：湯浅学生課長、小川学生課長補佐、布施学生支援係長、
瀬川事務補佐員、中野事務補佐員
- 議 事：
 - ① 特定非営利活動法人滋賀医療人育成協力機構の設立認証と法人登記完了についての報告
6月28日 滋賀県知事より特定非営利活動（NPO）法人設立認証を得ました。
7月4日 大津地方法務局にて特定非営利活動（NPO）法人設立登記が完了しました。
 - ② 滋賀医科大学からの特定非営利活動法人滋賀医療人育成協力機構に対する協力支援について
本機構へ滋賀医科大学から教職員の業務支援および設備の使用料・光熱水料費の免除等の支援内容についての覚書を取り交わしたいとの申し出があり、このご厚意に感謝し、恩恵を受けることが決まりました。
 - ③ 入会の呼びかけについて
入会金と年会費金額について検討し、多くの団体の方々に入会いただけるよう団体年会費を引き下げる
ことなどが決まりました。(年会費10万円を、一口1万円に変更等)
入会呼びかけの方法について検討しました。
 - ④ 入会案内および広報用パンフレット、ホームページの作成について
内容について検討しました。
 - ⑤ 平成23年度事業計画および役員について
内容について検討・確認を行ないました。
 - ⑥ 今後の活動予定について
宿泊研修、夏のワークショップを中心に事業をおこなっていくことになりました。
今年は特に、会員増強に力を入れていくことになりました。

NPO法人 滋賀医療人育成協力機構 役員一覧（設立時）

理 事 長	吉 川 隆 一	前滋賀医科大学長
副理事長	小 鳥 輝 男	滋賀県医師会副会長
	服 部 隆 則	滋賀医科大学副学長
理 事	井 下 照 代	滋賀県看護協会会長
	埜 田 和 史	滋賀医科大学准教授
	瀧 川 薫	滋賀医科大学看護学科長
	富 永 芳 徳	滋賀県病院協会会長
	永 田 啓	滋賀医科大学教授
	花 戸 貴 司	自治医科大学滋賀県出身同窓会「さざなみ会」会長
	三ツ浪 健一	滋賀医科大学教授
監 事	西 川 甫	滋賀医科大学模擬患者の会代表
	渡 邊 一 良	滋賀医科大学同窓会長



(敬称略・五十音順)

夏のワークショップ2011

毎年7月から8月にかけて滋賀県出身自治医科大学同窓会「さざなみ会」と地域包括ケアセンターいぶきの共催で、「医学生のための地域医療プログラム」が実施されています。今年はNPO法人滋賀医療人育成協力機構にとってはじめての事業として共催させていただきました。

●「医学生のための地域医療プログラム」とは

医学生達は7月～8月に1日から数日間、受入先病院・診療所で体験学習(体験実習)を行ないます。



全体報告会を開催し、学生の実習体験を発表します。
その後、講演会と懇親会を行ないます。

全体報告会・懇親会

8月27日(土)に長浜ロイヤルホテルにおいて、自治医科大学学生11名と、滋賀医科大学学生2名の出席のもと全体報告会と懇親会は開催されました。

実習報告では、体験学習を行った学生から、実習を通して気づいたこと、感じたこと、得られた学びや受けたアドバイスなどについて発表があり、その後学生を受け入れた診療所等の先生からのコメントや、会場からの質問などを通して自身の学びを振り返っていました。

全体報告会のみ参加の滋賀医科大学の学生さんからは、自身で行なった地域医療に関する研究についての発表があり、会場の医師から高い評価を受けていました。

フォトジャーナリストの國森康弘さんの特別講演では、「トイレの神様」の曲にあわせて映し出される、ごく自然な家庭での介護の様子と家族の方の病人へのかかわり方、そしてその中での医師の役目、写真と曲を通しての訴えに涙が止まりませんでした。



▲花戸先生から開会の言葉

懇親会では学生同士の交流、学生達と地域の医師や職員との交流が和やかに行われました。

学生たちは他の医科大学学生とふれあうことにより、よい刺激を受けることができた満足そうに帰途につきました。

さざなみ会会長 花戸貴司先生、地域包括ケアセンターいぶきセンター長 畑野秀樹先生のご厚意により、先生方にまとめていただきましたセミナーに関する感想と、参加者の声を掲載させていただきます。

地域包括ケアセンターいぶき 畑野秀樹先生より

ワークショップは、学生さんの夏期実習（診療所など医療機関での実習を踏まえてレポートしてもらいました）についての報告を、それぞれしてもらいました。学年によっても感じることは異なるようです。また特別講演として、フォトジャーナリストの國森康弘さんに、東日本大震災の現場の写真、アフリカなど世界の紛争地の写真、そして滋賀県内で在宅で過ごしてなくなっていく人の写真を提示しながら、幸せな死に方（生き方）、あるいは良い死（良い生き方）について、医師とは異なる視点から話をさせていただきました。

医学生さんにとって、医学についての哲学を深めることはもちろんですし、先端医療について学ぶことは大切なことです。「病気」に向かうとともに「人」に



▲自治医大、滋賀医大の学生さんと地域の医師

寄り添いながら医療を提供できる温かい医師に育てていただけるよう、このワークショップは皆さんの心に響いたのではないのでしょうか？

参加者の声 さざなみ会 花戸貴司先生作成資料より（抜粋）

医療機関での実習

◆地域医療の現場を見たのは初めてでしたが、医師や看護師の方と地元の方々とのつながりが強いのだということを感じました。畑野先生は、患者さん一人一人の話をよく聞くために、時間が制限されないよう予約はとられていなかったことがすごいと思いました。（1年）

◆4度目の実習でしたが、また新たに考えることがいろいろありました。土地の住民を熟知されている看護師さんたちのお話を聴かせていただき、往診なども含め、直接現場を見させていただき、医療者と患者さんの距離感の近さも身をもって感じられました。（4年）

◆滋賀の医療機関は本当に地域に密着しており、そ



▲家庭医後期研修プログラムについて雨森先生より



▶湖東診療所での実習報告

▲あいとう診療所での実習報告

の場所によって大きくスタイルは異なると感じました。しかし、患者さん一人一人について丁寧に接していこうというスタンスはとても勉強になり、また自分の理想でもあるので、ぜひ来年もよろしく願います。（4年）

◆3年前から地域中核病院に勤務しているが、自分が日々の診療にいっぱいになっていることに気づいた。学生の発表を聞いて自分が学生のときに感じた地域医療への思いを思い出すことができた。医療だけでなく地域で学ぶことも大事だということに改めて感じた。（医師）

◻ 國森康弘さんの講演



▲フォトジャーナリスト 國森康弘さんによる講演

- ◆地域医療の現場を非常に印象的に切り取られ、その魅力を強く感じることでできる写真ばかりで感動した。多くの方が幸福な最期を迎えられるような、そんなお手伝いができる医師になりたいと思った。
(2年)
- ◆医師でない視点からの考え方がよく伝わってきて、非常に良かったと思います。いつも医師同士、医療関係者同士での意見交換が多いので、かなり新鮮でかなり印象的でした。
(3年)
- ◆今回の実習で、畑野先生の「住み慣れた家で最期を迎えたいという願いをかなえるために」という題の講演を聴く機会がありました。その時にも死というものとは敗北ではなく、次の世代に命の大切さを伝える貴重な機会だという話を聞きました。研修中に往診患者さんの最期に立ち会う貴重な機会もあり、さらに多くの患者さんの最期を取材された國森さんの講演を聴くことで、写真によるより鮮明な表現で心に伝わってくる命の大切さ、それが次の世代で受け継がれていく様子を見ました。とても大切なものを得られる講演でした。
- ◆これまで出会ってきた多くの患者さんの顔を思い浮かべながらみていました。訪問で感じていた家族のあたたかさなどを写真としてしっかり残していただ

▶ 永源寺診療所での
実習報告



けているのが、とてもうれしかった。是非、社会にこの写真から伝わる家庭の良さ、そこに在宅医療が大きくかかわれることを伝えてほしい。(医師)

◻ 全体の感想

- ◆自治医大の方々の話の他にも滋賀医大の方や写真家の話を聞くことができ、今後のモチベーションにつながる良い機会でした。これからもワークショップを続けてほしいと思います。
(1年)
- ◆他の場所で研修した人の発表や他大学の学生の発表、先生方のお話を聞いて大変刺激を受けた。講演も医師とは違う切り口、視点からのもので貴重なお話が聞けたと思う。
(2年)
- ◆同じ「地域医療」でも各地域、診療所で共通な点、違う点など、見直すことができました。また、同じものを見ていても色々な人の話を聴き、異なった意見、自分よりもはるかに深い考えなども聞くことができました。
(4年)
- ◆病院勤務を始めて4か月ぐらいですが、初心を思い出すことができ、勉強になりました。ありがとうございました。
(医師)

滋賀医科大学 学生さんの 参加報告です

滋賀医科大学 医学科

1年 高塚 淑子さん
(体験学習・報告会両方に参加)



実習では地域包括ケアセンターいぶきの畑野先生、中村先生やスタッフの方々に大変お世話になりました。往診、外来、介護老人保健施設での先生方の仕事を見学させて頂きました。在宅医療では、患者さんもお家族も穏やかに生活されていたのが印象的でした。大学に入ってまだ数ヶ月ですが、目標にすべき医師像ができたように思います。ありがとうございました。交流会では、自治医大の学生の方々の報告を聞くことができました。またほかの施設の先生方の

お話も伺うことができ、とても充実した時を過ごすことができました。

滋賀医科大学 医学科

4年 松本 有美さん

(体験学習のみ参加)



『夏のワークショップ2011』

の案内が来た時、すごくわくわくしました。それというのも、この企画は、7～8月の任意の一日あるいは数日間、研修施設にて体験学習を行うという内容のもので、学生一人一人の予定や、お世話になりたい診療所を選ばせていただけるという、なんとも至れり尽くせりな内容だったからです。

もともと家庭医や地域医療に興味のある私にはうってつけだったので、迷わずこのワークショップに参加させていただきました。私は8月中旬から、自主研修で海外へ行く予定だったため、あまり時間がとれず、8月16日に一度だけケアセンターいぶきへ受け入れていただくことになりました。ケアセンターいぶきを受け入れ先として選ばせていただいた理由は、一度里親宿泊研修で訪問させていただいたことがあり、その時のケアセンターいぶきの雰囲気や家庭医を目指す自分の心に、とても印象深く残っていたからです。もう一度ケアセンターいぶきで実習させていただきたいという思いがあったため、実習先の第一希望として申請しました。

さて、当日ですが、午前中は外来やりハピリの為に通院されている患者さんとお話したり、畑野先生が胃カメラやエコーをされているのを見学させていただいたりしました。『病院よりも苦しくなく、楽に飲める胃カメラ』を目指しているという、患者さんに寄り添った医療を目指す畑野先生のお言葉が印象的でした。また、もともとの専門である循環器内科の知識を最大限利用されている姿を見て、包括的な医療を志すにしても、まずは何か専門となる科を極め、持っている必要があることも強く意識しました。午後は中村先生の訪問医療に付き添わせていただきました。訪問先までの車内で、訪問医療に関するお話をいろいろ聞かせていただきました。



▲ケアセンターいぶきでの実習報告

たった一日の研修となりましたが、ケアセンターいぶきで働く医療スタッフの方々の生の声を聞けたり、そばでお仕事されている姿を見学させていただくという、貴重な体験ができる機会をいただけた幸運に、心より感謝しています。自主研修との日程の兼ね合いで、ワークショップの報告会に参加することができなかったことは残念ですが、また来年以降も同じワークショップが開かれたときには、是非また参加したいと思っています。最後に、ケアセンターいぶきのスタッフの皆様、お忙しい中、丸一日面倒を見ていただいて、本当にありがとうございました。

滋賀医科大学 医学科

5年 大竹 要生さん

(全体報告会のみ参加)



いのちにかかわる職業に携わること

『夏のワークショップ2011』

に参加させていただきました。自治医大生の皆さんが、地元で地域医療に励んでおられる大学の先輩方の姿に触れ、様々な思いを發表されている姿が印象的でした。

しかし何と言っても印象的だったのが、写真家の國森康弘さんの特別講演でした。國森さんはもともと紛争地域の取材をされていたそうです。そこで「自分で選べない、望まない死」に直面した國森さんが、ここ日本で在宅看取りの場面の死を通して伝えたかったこと、その全てを消化しきることはできませんが、國森さんが描いた死と生、そこからいのちを肌で感じる家族の姿から、地域での在宅医療にかかわる将来の自分について考えさせられました。ありがとうございました。

夏の宿泊研修

～高島・朽木等湖西方面の医療と歴史・文化を学ぶ～

高島・朽木等湖西方面で「地域・医療理解のための宿泊研修」を実施しました

「高島・朽木等湖西方面の医療と歴史・文化を学ぶ」と題し、8月30日(火)～31日(水)の2日間、地域・医療理解のための宿泊研修を実施しました。昨年度までは、滋賀医科大学の学生支援GPの一環として行われていた宿泊研修ですが、今年度から滋賀医科大学里親支援室とNPO法人滋賀医療人育成協力機構との協賛事業になりました。

今回新たに他都道府県の医学系の大学で学ぶ滋賀県出身の学生にも参加を呼びかけたところ、今回の参加者は滋賀医科大学の学生を中心に自治医科大学の学生1名を含む総勢22名となりました。

また、研修内容は学生からの要望を取り入れ、少人数で地域の医療機関や福祉施設を訪問し体験的に学ぶことを中心とした研修としました。

1日目は、研修先へ向う車中、埜田理事（滋賀医科大学 社会医学講座衛生学 准教授）による大津市・高島市の総合病院や地域の医療機関との役割等の説明を聞きながら、社会保険滋賀病院、大津市民病院、大津赤十字病院、琵琶湖大橋病院の外観を見学後、ふくた診療所を初め、マキノ病院、朽木診療所、まつもと整形外科、特別養護老人ホームふじの里、特別養護老人ホーム清風荘へとそれぞれに分かれて研修に伺いました。

宿泊場所での交流会では、第1部として、高島市役所健康福祉部健康推進課の清水主監より「高島市の地

域と地域の医療・福祉について」とのテーマでご講演いただき、続いて、朽木診療所の川嶋先生からは「朽木での診療活動について」とのテーマで地域における医療活動の実情等をご講演いただきました。第2部は、研修先や滋賀医科大学里親学生支援室の里親・ブチ里親など8名の方々に、それぞれのお立場からご意見をいただきました。また、学生やご協力いただいた滋賀医科大学の教職員等から研修内容の報告や意見発表などもあり、貴重な情報交換・交流の場となりました。

2日目は、公立高島総合病院の外観を車中より見学後、琵琶湖周航の歌資料館へ向かい、湖岸にある歌碑の横で記念写真を撮りました。その後向かった、今津ヴォーリス資料館では、ヴォーリスの活躍等を伺い、同じく設計され現在も幼稚園として使用されている今津教会や旧今津郵便局の建物も見学しました。

次に向かった朽木地区では、600年にわたり領主であった朽木家代々の菩提所でもある興聖寺で、お寺の歴史等の話を伺い、本尊釈迦如来坐像を拝観させていただきました。その後は、朽木陣屋跡や朽木資料館を見学し、朽木地区の歴史や雪深い地域ならではの昔の人々の暮らしぶり等について学ぶことができました。

今回の研修は多くの地域の方々にご協力いただき、学生たちにとっても地域医療や地域の歴史・文化に対する知識を深められた大変有意義な研修になったようです。

地域理解・交流事業「宿泊研修」日程 ～高島・朽木等湖西方面の医療と歴史・文化を学ぶ～

◆ 8月30日(火) 1日目

滋賀医科大学（出発）〈9:20〉
↓
大津市病院群（巡回・外観見学）〈9:35～10:30〉
社会保険滋賀病院、大津市民病院、大津赤十字病院、琵琶湖大橋病院
↓
道の駅びわ湖大橋米プラザ（昼食）〈10:35～11:35〉
↓
（各班に分かれて）
医療法人 マキノ病院 医2・3年生（説明・見学・訪問看護同行）
ふくた診療所 医4年生（見学・訪問診療同行）
まつもと整形外科 医3年生（説明・診療見学）
高島市国民健康保険 朽木診療所 医3・4年生（説明・見学・訪問診療同行）
特別養護老人ホーム 清風荘 医1・2年生（説明・見学）
特別養護老人ホーム ふじの里 医1年生（説明・見学）
↓
びわこ湖畔白浜荘 〈17:00頃到着〉（交流会・宿泊）〈17:45～〉
夜は地元の方々・里親の先生方との意見交換、交流会

白浜荘での交流会日程

17:45～ 交流会〈第1部〉学生報告会/講演/意見交換等
19:15～ 交流会〈第2部〉懇談/会食
21:00～ 学生同士交流会

◆ 8月31日(水) 2日目

びわこ湖畔白浜荘（出発）〈9:05〉
↓
公立高島総合病院（外観見学）〈9:10〉
↓
琵琶湖周航の歌資料館（見学）〈9:35～10:00〉
↓
今津ヴォーリス資料館（見学）〈10:05～10:40〉
↓
興聖寺（見学）〈11:10～12:00〉
↓
朽木郷土資料館・旧鯖街道（散策・見学）〈12:05～13:00〉
……ボランティアガイドの案内による
↓
道の駅くつき新本陣（昼食）〈13:05～14:00〉
↓
大津京駅（一部下車）〈15:00〉
↓
瀬田駅（一部下車）〈15:30〉
↓
滋賀医科大学（解散）〈15:40頃〉

今津ヴォーリス資料館▶



地域・医療理解のための宿泊研修を終えて 新しい峰を目指した「里親支援事業」の課題

NPO法人 滋賀医療人育成協力機構理事
滋賀医科大学 社会医学講座衛生学部門准教授
里親学生支援室長

埜田 和史



大学は10月に入り、授業や実習が本格的に始まり、廊下や食堂も学生たちでごった返す「いつもの」風景にもどりました。

ご報告とお礼が遅くなりましたが、8月末には、湖西地域で「地域・医療理解のための宿泊研修」を予定どおり実施することができました。研修実施に際してご協力いただいたみなさまに心より御礼申し上げます。

今回の宿泊研修は、「里親支援事業」として始めた2008年から数えて7回目の宿泊研修となりましたが、2つの点で、今までとは異なる企画となりました。

その1点は、NPO法人「滋賀医療人育成協力機構」の支援を受け、滋賀医大の「里子」学生だけでなく、滋賀県出身で他都道府県の学校で学んでいる医学生も対象に取り組んだ点です。NPO法人「滋賀医療人育成協力機構」は県民や県下の諸団体が協力して将来の滋賀の医療の担い手育成を応援するために設立された組織です。NPO法人「滋賀医療人育成協力機構」には、2007年度から2010年度にかけて国の支援を受けて実施した「地域『里親』による医学生支援プログラム」の成果を引き継ぎ、滋賀医大以外の学生にも地域理解の取り組みを広げる多様な活動が期待されています。今回の研修に他大学から参加してくれたのは自治医科大学2年生の1人だけでしたが、学生間で有意義な交流ができていました。今後も、NPO法人「滋賀医療人育成協力機構」と連携して「里親支援事業」を継続発展させたいと思います。

もう一点は、事業の継続に伴って、医学科では4年生以上、看護学科では3年生以上の高学年「里子」が登場するようになり、「地域・医療理解のための宿泊研修」内容の見直しが必要になったことです。今までの宿泊研修では、滋賀県下を6ブロックに分けてそれぞれの地域について自然や文化、医療を学ぶことを目的に、主に施設見学やそこで働く医師・看護師の方々や住民・患者の方々からお話を伺うことをごこなってきました。こうした内容の研修が有意義であることは参加した学生、教職員が等しく認めるところですが、高学年学生のより高いレベルでの学習要求に答えていくためには「参加型」の学習機会を設定する必要もあるのではないかと考えました。また、宿泊研修が7回目ということで、初めから参加している高学年「里子」にとっては、「地域の見学」は前回で終えていることにもなります。そこで、今回、高学年「里子」は、ふくた診療所、まつもと整形外科、朽木診療所のご協力を得て、学生を診療活動に同行させていただきました。また、マキノ病院も訪問看護へ同行させていただきました。低学年学生は、高島市では高島市役所のご協力を得て、特別養護老人ホーム「ふじの里」、特別養護老人ホーム「清風荘」での見学研修をおこないました。いずれの企画も、参加した学生たちの評価は高く、今後の可能性を示す結果でした。学生が「参加型」で地域の医療活動を学ぶためには、多くの受け入れ施設が必要になります。地域の「里親」の先生方ならびに医師会の先生方、また、行政関係の方々のご協力を改めてお願いいたします。



▲興聖寺



▲施設見学の様子(清風荘にて)

学生の皆さんに 伝えたいこと

朽木診療所

川嶋 信吾



『高島・朽木等湖西方面の医療と歴史・文化を学ぶ』
宿泊研修の第1日目に参加し、第1部では私の朽木での活動をお話させていただきました。「どのような医者が、どのような地域で、どのようなことをしているのか」少しでも理解していただければと思っていましたが、拙い講演で申し訳ありませんでした。

今回の講演では少しだけ触れましたが、もう1点伝えたいことがありました。それは、地域の保健福祉医療を支えているのは医師だけではないということです。地域や個々の家族の実情に精通している診療所の看護師は、朽木の患者さんにとって医師同様あるいは医師以上に不可欠の存在です。種々の疾病や障害を持った方が自宅での生活を続けるためには、訪問看護師、セラピスト、介護支援専門員、訪問介護士など医師以外の多職種との関与が必要です。福祉施設での研修もありましたが、学生時代から他の専門職を理解することは卒業したあとチーム医療を推進していくうえで大きな財産となることでしょう。

最後にもう1点、学生の皆さんに考えてもらいたいことがあります。今回の講演でも交流会第2部でもあえて問題提起はしませんでした。皆さん自身が地域の第一線で医療に従事する他にも、将来地域医療に貢献する方法がたくさんあるということです。例えば、臨床から離れて行政に入るのもひとつの方法です。政治家となれば、滋賀県のシステムや国の医療制度に、さらに大きな影響力を持つことができます。臨床では、大学で地域医療に従事する医師を育てることもできるでしょう。専門領域を極め、大学の講座を主宰し、多くの医局員が集まれば、県内の関連医療機関へ派遣できる医師も増え、県内の医療水準も向上するでしょう。皆さんの可能性は無限大です。

学びて時にこれを習う、亦た説しからずや。

これから勉学に励み経験を積んで広い視野を持ち、将来の滋賀県の医療・日本の医療を支える人材となってくださいを期待しております。

朋あり、遠方より来る、亦た樂しからずや。

研修を通して学生さんの地域医療に対する熱い思いを感じる事ができ、私にとりまして大変有意義な1日を過ごすことができました。今回の研修を企画して



▲交流会1部 ご講演いただく川嶋先生

いただいたNPO法人滋賀医療人育成協力機構および滋賀医科大学里親学生支援室の皆様、ありがとうございました。また機会があれば是非参加させていただきたいと思っています。これからもよろしくお願いいたします。

研修を 受け入れて

ふくた診療所

福田 章典



当院は、大津市北部、比良山のふもとにあり、のんびり診療しています。内科消化器科を標榜していますが、内科疾患だけでなく、けがの処置や水虫等、なんでも診ています。特に、在宅診療では、様々な疾病の様々な病態の患者さんを診ています。ねたきりでも安定した病状の患者さんもいますが、人工呼吸器を使用している患者さんや家で最期の時間を過ごされる進行癌の患者さんもいます。

在宅診療は、患者さんの生活を支えているということが実感でき、とても楽しく、やりがいがあります。検査や投薬、処置等の狭い意味での医療で私がどこまで役に立っているかは心もとないところですが、少なくとも医師が家に足を運ぶことで安心感をもって過ごしてもらえていると感じています。

今回の実習では、午後からの訪問診療に同行してもらいました。

神経難病の患者さんが2人、いずれも胃瘻、一人は気管切開を受けておられます。

進行癌で対まひの患者さん。

肺気腫、認知症で胃瘻、在宅酸素の患者さん。

軽い認知症があり、大腿骨頸部骨折後ですが、がんばって歩行器で歩いている患者さん。

90代で頸椎症はあるものの比較のお元氣な患者さん。

6人の患者さん、北から南まで湖西線の7つの駅の範囲を訪問しました。

滋賀医科大学5年生の臨床実習とも重なり、あまり時間に余裕がなく、十分に説明できず、消化不良であったかと思います。病院での実習では接することができない、患者さんの家での生活を少しだけ感じてもらったのではないのでしょうか。少なくとも、さまざまな病状の患者さんが家で生活されているということはわかってもらえたかと思います。

実習を受け入れると、診療と医学生への対応と二つのことに頭を使わなければならない、老化が始



▲交流会2部にてお話しいただく福田先生

まった脳には少々負担になりますが、今後も、学生さんたちに在宅医療をのぞきに来てもらいたいと思っています。

宿泊研修を受け入れて

特別養護老人ホーム ふじの里
施設長 坂東 正敏



高島市役所担当者から宿泊研修のお話があり、不安を抱きつつ医学生3名と同行職員の方を受け入れさせていただきました。

まず、ふじの里の現状を簡単に説明、食事環境と施設内見学をされた後、介護士、相談員、ケアマネジャーと懇談、約4時間余り過ごしていただきました。ご覧いただいたとおり、ふじの里は生活施設であり、高齢者の方々に余生を安心して過ごしていただくため日々業務に励んでいます。一方ゆとりのある生活をしていただくため、食事について美味しく楽しくをモットーにカフェテリア方式を取り入れています。全ての人々が持っている五感をくすぐると共に、副食を自由に選択できる自己決定の場としました。自分で選択することにより食べ残しも少なく、体重維持に必要な適量と栄養分が摂れているものと考えています。

ふじの里は協力病院として公立高島総合病院と契約し高齢者の方々の健康維持に努めています。福祉と医療は普通の生活が維持できるよう連携を取りあう事が如何に大事か、緊急や救急時の対応で助けられたことが身に沁みています。

また、人生には必ず訪れる終末期の過ごし方について、ご希望を聞き実現に向けて協力しなくてはなりません。施設としては囑託医師、御家族の協力を得られれば、ターミナルケアを再開したいと考えています。ただ、高島は他市と異なり夜間における医師確保が十分ではないと思っています。医療機関相互の協力体制が整備されると、看取りが増えるものと考えます。医学生皆さんの皆さんが医師になられた時には、地域に密着した医療機関の医師として、全ての人々に安心して生活できる医療体制を構築してくれることを願っています。

入所者の中にも胃ろう造設された方が居られますが、医療機関では胃ろう技術が進歩したため、経口摂取

できなければ、手術される場合が多いと聞きます。生命維持は食べる意欲により決定されると思いますので、胃ろう造設は摂取能力を充分検討した上で判断して欲



▲施設見学の様子(食堂にて)

しいと思います。

医学生の皆さんも特養での研修は初めてだと思いますが、保健、医療、福祉の現状をしっかりと把握され、将来それぞれの現場において生かしていただければ幸いです。

研修を受け入れて

特別養護老人ホーム 清風荘
施設長 前田 光泰



6月に急に入院した清風荘施設長が担当していた地域密着型特別養護老人ホームも無事に竣工し、法人あげて開設準備にとりかかろうとしていたときに、高島市から滋賀医科大学の学生を受け入れる研修依頼が舞い込んできた。

過去に医師になりたての人に福祉現場を体験してもらおうという県のカリキュラムに沿った研修は受け入れたことがあるが、医大生の研修とはどうすればよいのかわからないまま受け入れの回答をしてしまった。

7月中旬から下旬にかけて新施設職員への研修を行い、8月1日から新施設での入所が始まった。法人としての事業全体がやっと落ち着きを取り戻してきた時に、地域医療を志す医学生の人たちを受け入れる研修日がやってきた。

当日は午後半日の研修であり、特段、カリキュラムを定めるということも行わなかった。一般的な施設見学の場合、「何か質問はありませんか?」と、こちらから問うてもなにも返ってこないのがほとんどで、拍子抜けすることが多いが、さすがは地域医療を考える医学生の人たちであった。当方の地域へのかかわりや法人・施設の理念について説明を行うと、医療の立場からの質問がすぐに返されてきて、質問→回答・説明→質問→回答と研修の趣旨に沿ったやりとりがなされた。途中、清風荘の看護師も同席し、施設で働く看護師の実態を知ってもらうこともできた。

また、認知症高齢者の生活実態や、施設のハード・ソフトも見学され、高齢者介護施設の実情を知っていただくよい機会となった。福祉施設の受け入れ研修で充実感を感じつつ進行することはまずないのだが、今回の交流事業は、研修受け入れ施設としても満足感が感じられた研修でした。

また、このような機会があれば積極的に受け入れを行いたい。お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。



▲施設の説明、質疑応答の様子

宿泊研修に参加して(学生の声)



▲交流会1部 質疑応答の様子

特別養護老人ホーム 清風荘にて研修

研修に参加して

滋賀医科大学 医学科1年 高塚 淑子

実習では特別養護老人ホームを訪問し、施設の方々から施設の概要やご苦労されている事などをお伺いする事ができました。地域医療という場合、医療と介護、福祉の連携の重要性が指摘されますが、医療以外の分野の現場の方々のお話を直接に聞くことのできる機会はとても貴重だと思いました。

今後も研修に参加し、滋賀県の医療体制を立体的に捉え、その中でどういふ事を学びどうすれば人の役に立つことができるのかを知ってゆく機会にしていきたいと思います。

研修で感じたこと

滋賀医科大学 医学科1年 門間 美里

今回の宿泊研修で、私は特別養護老人ホームを訪問しました。余命わずかであることを前提として入所される患者さんを介護するという仕事に従事される方々とお話しする中で、治すだけが医療ではないことを学ぶことができました。施設長のお話の中で最も印象に残ったのは「いくらお金を積んでもその仕事にやりがいを見いだせない人は辞めてしまう」という言葉です。今の高齢化社会の中、この滋賀県で必要となる医師とは、患者さんを治すだけでなく、患者さんの最後を責任を持って看取ることが出来る医師ではないかと、この研修で深く感じました。

充実した2日間

滋賀医科大学 医学科2年 宇佐美 沙弥

私は、今回の宿泊研修で、特別養護老人ホーム清風荘を見学させていただきました。清風荘には最先端の技術が導入されていて見学できてよかったです。

また、滋賀医大から湖西地域に向かう途中で数台の救急車とすれ違いました。湖西地域から30分から1時間ほどかけて大津市内の病院へ搬送しているそうで、湖西地域の病院の少なさを実感しました。大学の講義では分からない僻地医療の現実を感じることができた充実した2日間でした。

まつもと整形外科にて研修

地域に根差した医療

滋賀医科大学 医学科3年 傍島 宏貴

今回の研修で僕はまつもと整形外科を見学させていただきました。先生は、畑仕事などで足腰を痛めた患者さんと仲のいいご近所さんのように患者さんの近況や世間話をしながら、痛みをとる治療をなさっていました。それは地域に根差した医療のお手本のように思いました。

帰りに必ず患者さんが「ほな、先生ありがとうございました」と言ってお帰りになられるのですが、それがまるでご飯屋さんで食事をした後に「ごちそうさまでした」を言うような親しみを感じました。

地域医療についてとても勉強になった2日間でした。

特別養護老人ホーム ふじの里にて研修

貴重な経験

滋賀医科大学 医学科1年 木村 優香

宿泊研修に初めて参加させていただきました。研修の中で特に印象深かったのは、湖西の医療が厳しい状況にあるということです。湖西には病院が少ないので、患者さんを支えるには在宅医療が不可欠です。しかし、往診を行う医師がとて少ないことを知り、強い問題意識を持ちました。

二日目には湖西の資料館を巡ったりと、滋賀の魅力をたくさん知ることができました。中でも、ヴォーリス資料館が素敵でした。

ありがとうございました。

内容の濃い2日間

滋賀医科大学 医学科1年 小川 智恵美

今回が初めての宿泊研修でしたが、病院巡りに特別養護老人ホーム訪問、高島市の観光、ととても内容の濃い2日間を過ごすことができとてもよかったです。

特別養護老人ホーム「ふじの里」訪問では、施設の方のお話を聞いて医師と福祉施設とのつながりを初めて知りました。そしてこうしているんなところから必要とされているのに、緊急時に対応できる医師が不足しているという現状を知り、深刻な問題であると思いました。

高島市の観光では、同じ滋賀県に住んでいたのに全く知らなかったことがたくさんあり、滋賀の魅力を新たに発見することができてよかったです。

今回の研修で学んだことを活かし、これからは介護・福祉にも視野を広げて学んでいきたいと思っています。

勉強になった宿泊研修

滋賀医科大学 医学科1年 石原 晶子

今回、宿泊研修に参加させていただいて、高島の地域医療についてふれることができました。特別養護老人ホームにおじゃまして、そこで働いておられる方々の生の声が聴けて勉強になりました。そして、医者といっても、様々な働き方があることを知りました。また、自治医大の方のお話も聞けて、とても楽しかったです。このような場を設けていただき、本当にありがとうございました。これから、もっと将来のことを考えていこうと思います。



▲交流会2部にてお話いただく松本先生



▲交流会2部で学生からの報告の様子



▲学生同士の交流会で

マキノ病院にて研修

宿泊研修で得たこと

自治医科大学 医学科2年 八坂 寛久

今回の研修場所となった湖西・高島地域は私の生まれ故郷でした。この地域で問題になっている高い高齢化率や医療資源の不足に対する危機感は、私も生活者の実感として強く抱いているものです。この宿泊研修では、訪問看護に同行させていただいたり、高島市で働く医師や行政の方のお話を聞いたり、診療所や福祉施設を訪問した他の学生の報告を聞き、様々な角度からこの地域の保健医療福祉について学び、考えることができました。改めて地域が抱える問題を認識すると同時に、自分の知らないところで多くの人がそれに向き合い、積極的な取り組みをされていることに気づかされました。

また、滋賀医大の皆さんと交流できたのは私にとって大きな収穫でした。将来義務として地域医療に携わる我々自治医大生の他に、自ら滋賀での地域医療に関心を持ってこうした研修に参加し、意欲的に学んでいる学生が沢山いることを知り、とても嬉しく思いましたし、また刺激を受けました。ただ一人、他大学からの参加ではありませんでしたが、滋賀医大の皆さんにあたたかく迎えていただき、2日間一緒に楽しく研修を受けることができました。参加して本当によかったと思っています。ありがとうございました。

貴重な体験

滋賀医科大学 医学科2年 西野 裕香

研修旅行に参加させて頂くのは以前滋賀医科大学で里親GPとして実施していた時を含めて今回で二度目になりますが、回を重ねる毎に地域医療に対する理解が深まるのを感じています。訪問看護に同行し、「現場」を肌で感じる事ができたのは本当に貴重な体験でした。少人数で訪問させて頂いたので、看護師の方をはじめとするスタッフの皆さんと個人的にお話出来、皆さんのそれぞれの土地への愛情や仕事への熱意を再認識しました。これからも滋賀県の医療に関心を持ち、このような機会を逃さずに参加させて頂きたいと思っております。

やりがいを感じる地域医療

滋賀医科大学 医学科3年 平野 慎悟

今回の研修で伺った施設は、今までと違って比較的規模の小さなものが多かったのですが、どの地域においても同じように人の問題、お金の問題、制度や慣習の問題など、抱える問題は多く、それらとうまく折り合いを付けながら地域での医療が成立しているようでした。規模の小ささのためか人と人の距離がとても近く感じられ、こういった形の医療の一つの魅力、やりがいを感じる事ができました。

朽木診療所にて研修

貴重な体験

滋賀医科大学 医学科3年 石塚 義崇

宿泊研修は去年の夏、滋賀医科大学で里親GPとして実施していた時以来の参加となりましたが、今回は少人数でおかつ自分の希望した医療機関や施設に伺うことができたため、2日間という限られた時間を非常に有意義に過ごすことができたように思います。私は川嶋先生のもとで乳幼児検診の見学と、訪問診療への同行をさせていただきました。訪問診療では今回は診療所から5分ほどの患者さんのお宅へ伺いましたが、片道30分以上かけて診療に伺うこともあるそうです。特に雪深い冬は中々大変だということも伺いました。しかしそれでも訪問診療を続ける川嶋先生のような方がおられるからこそ、朽木の医療が成り立っているのだと、訪問診療へ同行させていただいて深く感じました。

印象深かった診療所見学

滋賀医科大学 医学科4年 中嶋 麻子

今回の宿泊研修で特に印象深かったのが診療所見学です。朽木診療所の川嶋先生にお世話になり乳幼児検診と訪問診療に同行させて頂きましたが、地域医療に携わる医師は「地域が必要とする医療を自ら把握し、習得し、地域に還元する」ということを、身を持って教えて頂いた気がします。また長期にわたる在宅医療は家族だけでは支えきれず、医療者が寄り添い、一人(家族)ではないことを伝え続けること、医療者の縁の下のサポートで気持ちが救われる家族がいること実感しました。

最後に、お世話になった皆様、本当にありがとうございました。



▲ブチ里親の皆さまからもメッセージをいただきました

ふくた診療所にて研修

訪問診療のすすめ

滋賀医科大学 医学科4年 辻野 絵美

この度の宿泊研修では、地域医療における在宅医療の魅力と必要性について学ぶところが多くありました。ふくた診療所にて訪問診療に同行させていただいた際には、福田先生から今のお仕事のやりがいについてお話を伺ったり、先生を迎えた患者さんやそのご家族の方の安心した表情を間近で見るとったりすることによって、今まであまり具体的なイメージのなかった訪問診療がとても温かみのある医療として感じられました。滋賀県は医療施設のベッド数が少ないようで、このような地域では特に在宅医療の必要性が高いと考えられます。訪問診療はこれを支えるという意味でも、今後の拡充が望まれるところであり、私自身も将来何らかの形で関わりたいと考えるきっかけとなりました。

平成23年度後半期に予定しております 活動・事業は、次のとおりです。

1 春の宿泊研修を開催いたします！

平成24年3月に春の宿泊研修として、余呉等湖北方面を訪問させていただきます。宿泊研修では、余呉等湖北方面の地域医療の実情を理解するとともに、地域の文化に触れさせていただく予定です。

現在、計画中ですが、会員の皆様、地域の医療関係者や住民の皆様、病院・施設等に、学生の研修受け入れや交流会の参加の呼びかけをさせていただく予定です。その際にはご協力を賜りますようお願いいたします。

また、学生の皆さんへの参加の呼びかけは、来年1月に実施する予定です。

3 ホームページを活用して、県内の医・看護学生への情報発信基地となるよう努めます！

県内の病院や診療所での実習や研修、募集等の情報を収集し、ホームページから発信いたします。

2 県内在住の高校生に本機構の活動をアピールします！

将来、医学科・看護学科への進学を希望されている県内在住の高校生に、本機構の活動内容をお知らせするとともに、進学後、宿泊研修や夏のワークショップ等に参加していただけるよう呼びかけを行ないます。

4 県内の医師会を巡回し、滋賀医療人育成協力機構の活動をアピールしていきます！

本機構の取り組みや活動内容を広報し、支援していただける医療関係者を募るため、埜田理事（滋賀医科大学准教授）が県内医師会を巡回し、講演いたしております。

各地域医師会を順次訪問させていただきますので、その際にはご協力よろしくをお願いいたします。

入会のごあんない

本機構の活動にご賛同いただく関係団体、および御篤志の方々のご入会いただき、会費を送金いただくことにより活動が成り立ちます。ぜひとも、ご賛同のうえご入会いただきますようお願い申し上げます。

正会員：本機構の目的に賛同して入会される個人または団体（毎年会費を徴収させていただきます。）

正会員の種類	入会金（初年度のみ）	年会費
個人	5,000円	1口 5,000円
団体	10,000円	1口 10,000円

正会員につきましては、1口以上をお願いいたします。

所定の入会申込書に必要事項をご記入いただき、事務局までご送信下さい。
あわせて振込用紙にて最寄りの金融機関で会費をお振込ください。

賛助会員：本機構の目的に賛同され御寄附される個人または団体

個人・団体とも1口1,000円以上をお願いいたします。（入会金をお支払いいただく必要はありません）振込用紙にて、最寄りの金融機関で会費をお振込ください。（入会申込書を提出いただく必要はありません。）

※ご入会いただきました方々のご氏名、団体名は広報誌やホームページ等で原則公表させていただきます。
公表を希望されない場合はその旨を入会申込書または振込用紙にお書きください。

※お手元に入会申込書・振込用紙がない場合はお手数ですが、事務局までご連絡ください。

NPO法人 滋賀医療人育成協力機構 会員一覧

(敬称略・五十音順 平成23年11月20日現在)

個人正会員

石田 哲夫	磯野 高敬	井下 照代	宇田川 潤	遠藤 善裕	大路 正人
太田 節子	小鳥 輝男	岡田 裕作	角野 文彦	柏木 厚典	加藤 日典子
金子 均	菊地 美英子	吉川 隆一	久保 知恵子	熊澤 孝久	桑村 隆
佐井 義和	坂口 昇	埜田 和史	高畑 正之	寶本 幸憲	瀧川 薫
近野 富雄	筒井 裕子	寺田 智祐	永田 啓	中森 愛子	西川 甫
西田 俊夫	服部 隆則	花戸 貴司	東野 克巳	福田 章典	福田 方子
藤井 要	松川 誠司	松田 茂夫	松本 道明	三ッ浪 健一	宮本 敏広
村山 典久	目片 信	安田 斎	山崎 治之	山崎 正策	山本 明
渡邊 浩子					

団体正会員

財団法人 近江愛隣園今津病院	財団法人 近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近江八幡市立総合医療センター
医療法人 徳洲会 近江草津徳洲会病院	大津市民病院	有限会社 京都エル技研
公立甲賀病院	長浜市立 湖北病院	社団法人 滋賀県医師会
社団法人 滋賀県看護協会	社団法人 滋賀県私立病院協会	社団法人 滋賀県病院協会
社会保険 滋賀病院	独立行政法人 国立病院機構 滋賀病院	市立長浜病院
地域包括ケアセンター いぶき	医療法人社団 富田クリニック	財団法人 豊郷病院
長浜赤十字病院	医療法人 敬愛会 東近江敬愛病院	東近江市
彦根市立病院	社団法人 水口病院	びわこ学園 医療福祉センター 草津
びわこ学園 医療福祉センター 野洲	医療法人 明和会 琵琶湖病院	医療法人 弘英会 琵琶湖大橋病院
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	医療法人 マキノ病院	医療法人社団御上会 野洲病院
医療法人 友仁会 友仁山崎病院		

個人賛助会員

荒木 寿一	井上 良雄	太田 淳	岡本 重人	大矢 俊子	川瀬 ヒトミ
北山 至子	木村 みすず	小杉 大雄	小林 健吉	小宮山あい子	榊原 春司
榊原 百合子	宅間 明枝	田附 民子	田中 政之	中岡 順孝	中嶋 達雄
中村 琴子	西角 淳	西村 フミ	布引 元子	橋本 利衛	深田 保子
藤居 富子	藤川 憲夫	古田 實	馬杉 義明	松本 君代	松本 正巳
山森 と志子	四谷 健一				

団体賛助会員

滋賀医科大学同窓会「湖医会」	長浜青樹会病院 セフィロトヘルスケア
----------------	--------------------

ご寄附

財団法人 和仁会	馬場 忠雄	服部 洋子	宮居 好子
----------	-------	-------	-------

ご協力

滋賀医科大学

※お名前公表をご了解いただいた会員様についてのみ、掲載しています。

広報誌創刊号の愛称・キャラクターについて



メディカルめでのちゃん

創刊号を発行するにあたり『めでの』を仮の愛称といたしました。
 "メディカル(医療・医学の英語名)"と、"医療学生・看護学生たちの『芽が出る』"と、"滋賀県と地域を『愛でる』"から創刊号の愛称としました。
 引き続きみなさまから広報誌の愛称とキャラクターを募集したいと考えておりますので、アイデアをお寄せ下さい。
 また、地域の皆さま・患者様・医療関係者等のお立場から、医学生・看護学生へのメッセージや地域の紹介などの原稿を募集しております。
 この広報誌が、地域の皆さま方と医学生・看護学生の皆さんとの交流の場となればと思います。

編集後記



今年、3月には東日本大震災・原発事故、9月には紀伊半島を襲った2つの台風による土砂崩れや川の氾濫など自然災害の年となってしまいましたが、みなさまにおかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

平成19年度から、滋賀医科大学において進められてきました「地域里親による医学生支援プログラム」の一環である「地域を理解するための宿泊研修」では、地域医療をささえておられる医療従事者の仕事を見学しただけではなく、患者やその家族とのかかわり方や信頼関係の暖かさ、そして医療関係者への期待など多くのことを学ばせていただけたと思っています。

残念ながら、平成23年3月で文部科学省での、採択事業としては終了しましたが、この事業の継続を希望されるみなさまのご協力により滋賀医療人育成協力機構が誕生し、NPO法人の設立と、活動開始に向けた準備をすすめ、やっと7月4日より法人としての活動を開始することができました。

8月には、「夏のワークショップ2011」、「地域・医療理解のための宿泊研修」を共催させていただきました。どちらも参加した学生さんたちに好評で、初年度の事業としては上々の滑り出しができたのではないかと、ほっとしております。

一方、会員を募り、財源的な基盤を作る活動は緒に就いたばかりです。県民や県内の企業・団体のみなさまへのご案内を広げていきたいと思っています。そうした活動に、この広報誌が少しでも役に立てばと願っております。

この広報誌は皆様に親しまれるものにしていきたいとの思いから、内容や誌面づくりなどについてご意見をいただけるモニターを募集したいと考えております。お力をお貸しいただける方は、お気軽に事務局にご一報ください。

最後になりましたが、創刊号の発刊に際し頂戴いたしましたみなさまからの機構へのご厚情に対し、改めて感謝申し上げますとともに、この活動を暖かく見守っていただきたいとの思いで一杯です。地域医療を担う医学生・看護学生の志を、みなさまとともに育んでいきたいと思っています。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

NPO法人滋賀医療人育成協力機構 広報誌「めでの」創刊号

発行年月日：平成23年12月1日

編集：NPO法人 滋賀医療人育成協力機構

所在地：滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学内

TEL：077-548-2802 FAX：077-548-2803

Email：satooya@belle.shiga-med.ac.jp

URL：http://www.shiga-iryo-ikusei.jp